

庄原さとやま 民泊通信

特集版

平成27年12月20日発行



今年の夏も
三河内に帰ってきた！



【初日】
午前10時過ぎ、七塚原高原にある「畜産技術センター」に1台のバスが到着。8月18日(木)から4日間西深津小学校の児童46名が庄原市に野外体験活動の一環で民泊にやってきました。まずは「畜産技術センター」で乳牛の乳搾り体験や施設内の見学。初めて触れる牛に戸惑いながらも、少しずつコツをつかんでの乳搾り。身長2倍以上ある大型トラクターへの乗車(停車中)体験など、みんな普段見たことのないものに興味津々でした。七塚で昼食をとった後は、吾妻山に移動して、山野草を観察しながら森の散策を行い、そのまま吾妻山ロッジに集団宿泊して、初日を終わりました。

【2日目】
午前中は比和自然科学博物館の見学と、アサヒの森に移動して森と水の学習会を行いました。博物館ではモグラのはく製などに触れたり、クジラのはく製を見ながら、その歴史を学びました。午後からは、いよいよ開村式！地元の子ども達による歓迎の踊りや児童たちによる組体操を披露するなど互いに歓迎の催し物を行いその後、受入家庭の皆さんとご対面。班ごとに分かれて各家庭へと向かいました。家に帰って小休憩を挟むと早速、夕食の準備。各家庭ごとに、子ども達と一緒に夕食作りに励みました。自分たちで作った夕食を食べると美味しさも格別のよう、あつという間に完食。大満足の夕食でした。

『3泊4日の三河内民泊体験レポート』

比和町の三河内地区では、平成20年から県内小学校の民泊受入を行っています。今回は、初年度より8年間に渡って、三河内に来てくれている福山市立西深津小学校の受入れ風景をご紹介します。

未来を担う子どもたちへ・・・
これからの社会を生きる力を。

庄原市さとやま体験交流協議会 事務局

(庄原市観光協会:担当 曾根・福光)0824-75-0173

【3日目】

朝食を取ると三河内にある慶雲寺にみんな集まり、座禅や八十八ヶ所巡り、ヒゴタイの自然学習などを行いました。初めて座禅を行う子も多い中、みんなしっかり最後まで集中力を切らずに精神統一。普段は騒がしい子ども達も、やる時はやるんだなと改めて実感。お昼からは受入家庭で田舎暮らし体験を満喫しました。トウモロコシを収穫しそのまま焼いて食べたり、牛のお世話をしたりと普段は出来ない事をばかりを体験。夜はキャンプファイヤーをする予定だったのですが、あいにくの雨で代わりに体育館の中でキャンドルサービスなどを行いました。

【最終日】

朝8時半に小学校に集合し、この民泊体験を通して学んだことの集大成を俳画にする俳画作りが行われました。みんな思い思いの作品を仕上げ、自分自身を見事に表現していました。昼食をみんなが取った後は、お別れ式。たった、3日間のふれあいでしたが、心と心が通うには十分な時間で、みんな別れることの辛さに涙が止まらない様子でした。受入家庭のみんなと再会の約束をしながら、バスに乗り込み、最後まで手を振りながら福山へと帰っていききました。



三河内での民泊受入を行っている協議会の事務局長 奥田氏に、「民泊」の必要性について聞いてみました。

**地域を未来に受け継ぐため。
子どもたちの未来を創生するため。
それが「民泊体験」**

「民泊」という言葉は最近かなり定着してきました。その中で、庄原市がめざすべき民泊とは、風光明媚で時間が止まったような里山の中で、日常の喧噪を忘れて非日常的な時間を過ごし、現地の人々と交流することで元気をもらって帰っていただくものです。比和町三河内地域で行ってきた農家民泊体験の試みは、平成20年から始めて今年で8年目。子どもたちが農家に泊まって家族同然の生活を送ることで、子どもたちに元気を与え、地域の高齢者の方々は子どもたちから元気をもらう。つまり、お互いに元気づけ合う体験になっているのです。最終日のお別れ会では、心が通い合うようになった農家の方々と子どもたちを見て、毎回私も泣いてしまいます。

民泊は、人口減少のくい止めや空き家対策、後継者不足、定住促進など、町が抱える問題を解決する一つの手段であり、今後の町づくりを考えるうえで継続していくべき試みであると考えています。これは、全国の中山間地域が共通して抱える問題でもあります。

この農家民泊体験を私がお手伝いすることになったのは、都会や外国での生活を通して、改めて地元の魅力に気づき、歴史ある三河内地域を「なんとかして次世代に継承していきたい」と強く想ったからです。町の荒廃や人口減少など、そのまま何もしなければ町は存続できず、先人たちが守り続けてきた三河内という地域は地図から消えてしまう。そうならない為の努力を重ね、同時に町の再生に向けて地元で暮らしている人たちの士気も高めたい……。そんな想いもあります。

農家民泊体験は、子どもたちの秘めた可能性を引き出せる機会であり、子どもたちの成長が目に見えてわかる貴重な機会でもあります。それまで野菜嫌いだった子が、農家で野菜のおいしさに目覚め、民泊体験以降は好き嫌いがなくなったことに、「両親、先生方が驚かれるというケースも少なくありません。これからの日本を支えていく子どもたち。元気いっぱいの子どもたちが成長し、健やかな人材を社会に送り出すためにも、この農家民泊体験を庄原市の中でもさらに広げていきたいと思えます。



三河内子ども農村交流協議会
事務局長 奥田順紀氏



組体操



流しそうめん



そば打ち



スイカ割り



キャンドルサービス



トマト収穫



森と緑の学習



近所の散策